

＜今日の説教のポイント イザヤ書 8 章 23b 節—9 章 6 節＞
旧約が預言する救い主とは誰？ 新約のキリストで成就するとは？

①旧約聖書のインマヌエル預言はヒゼキヤを指していた。それでいい。

イザヤ書のインマヌエル預言はまずヒゼキヤ王を指していたと考えられます (23b、先週の説教)。無理にイエス・キリストに結び付ける必要はありません。なぜなら、大事なことは、ヒゼキヤ王を与えて下さった神様がイエス・キリストを与えて下さったのだと納得できるかどうかだからです。8 章 23 節 b 以下の内容からそのことを考えていきましょう。

② (23b-3) 闇の中を歩む民に大いなる光を見させて下さる神様！

8 章 23 節 b から 9 章 3 節には、神様に背を向けてアッシリアに依り頼んでそのアッシリアに滅ぼされた地 (ゼブルン、ナフタリ、先週の説教) がヒゼキヤ王の信仰によって再び回復の日を迎えたことが、「**闇の中を歩む民は、大いなる光を見**」と述べられています。旧約聖書の神様は、自らの罪故に闇の中を歩むことになった者を見捨てず、再び光の中に導いて下さる方なのです。これは私たちがイエス・キリストによって知らされた罪からの赦しの恵みの内容と一致しています！

③ (4-5) 戦いによらず祈りによって平和を勝ち得たヒゼキヤ王！

主の神殿で熱心に神様に向かった祈りが聞かれ、アッシリア軍が不思議な仕方で撃たれて九死に一生を得たヒゼキヤ王と南ユダ王国。この 4-5 節では、戦いの放棄とそれを推進して平和を打ち立てる権威ある王が与えられるということが強調されています。平和のもたらしとその権威を持つ方、王の到来 — このことをイエス・キリストがもっと深い仕方 (御自分を犠牲にされる死と復活) で成し遂げられたのを、次の 6 節を読む時に、私たちは驚きをもって覚えるのではないのでしょうか？！

④ (6) キリストの到来こそが「神の正義と恵みの業」の最終成就！

天使は、マリアに生まれて来る男の子に「神は救う」という意味のイエスという名をつけるように命じ、「神である主は、彼にダビデの王座を下さる。彼は永遠にヤコブの家を治め、その支配は終わることがない」と告げました (ルカ 1:30-33)。まさにこの 6 節です！「**神の正義(ツェダカ)**」と**恵みの業(ヘセド)**」(6)によるダビデの裔の最終支配が、まさにイエ